

2020年（令和2年）度定時社員総会議事録

日時：2020年3月27日（金）11:00～11:30

会場：一般財団法人口腔保健協会 302会議室

開会の辞

渡辺常務理事より、事前に寄せられた書面評決状の総数242通（第1～9号議案について賛成242、反対0）、委任状なしでの総会出席者0名により総数242名であり、代議員総数318名の過半数（160名）を上回ることから、定款30条の定足数を満たし、社員総会が正式に成立することが報告され、開会の辞が述べられた。

議長選出

渡辺常務理事より、先日開催された理事会にて「本年度の定時社員総会は理事長の責任で改めて開催日時を決定し、後に確認を求めること」の決議がなされていることを受けて、定款33条に基づき理事長である八木沼洋行先生を議長に選出したことが報告された。

I. 議事録署名人の選任

渡辺常務理事より、定款34条に基づき議事録署名人として監事の木山博資先生（名古屋大学）と、藤本豊士先生（順天堂大学）が推薦され、承認された。

II. 理事長報告

八木沼理事長より、新型コロナウイルス感染拡大に伴い第125回全国学術集会在誌上開催となり残念であったとの冒頭のあいさつに続き、日本解剖学会の状況について報告があった。主な点は以下の通り。1) 若手研究者の会を立ち上げることができた。2) 解剖学雑誌ならびにASIの出版が順調に行われた。3) 北海道大学において遺体取り違えが発生してしまったが適切に対応した。4) 技術職員における現状と課題についてのアンケートを実施した。5) 海外交流事業では韓国解剖学会（KAA）との若手研究者交流をおこない、2020年に北京で開催される9th APICAについても協力することで準備をすすめている。

III. 報告事項

以下1～7について、渡辺常務理事より資料に基づき報告された。

1. 会員状況

2019年12月31日現在の会員状況は、正会員1,945名、名誉会員54名、永年会員164名、賛助会員22名、団体会員54名、寄贈会員24名である。

2. 物故会員

18名の物故会員氏名が奉読され、出席者全員により黙祷が捧げられた。

3. 教授就任による新代議員紹介

教授就任による新代議員は以下9名である。（敬称略）

畠山 雄次（福岡歯大・生体構造学・機能構造学 H29.10.1就任）

嶋 雄一（川崎医大・解剖学 H31.4.1就任）

大庭 伸介（長崎大・歯・細胞生物学 R1.5.1就任）

高橋 和男（藤田医大・解剖学II R1.5.1就任）

石津 綾子（東京女子医大・解剖学（顕微解剖学・形態形成学） R1.6.24就任）

石田 雄介（東北医薬大・解剖学 R1.10.1就任）

後藤 英仁（三重大・医・神経再生医学・細胞情報学 R1.10.1就任）

上村 守（大阪歯大・解剖学 R1.11.1就任）

和氣 弘明（名古屋大・医・機能形態学・分子細胞学 R1.11.1就任）

4. 正常解剖における遺体取り違え防止対策に関する状況調査について

平成31年3月、北海道大学において遺体の取り違えが発生したことを受けて、全国の医学部（医科大学）と歯学部（歯科大学）に所属する系統解剖学教育担当教授宛にアンケート調査を実施した。現

在報告書を作成中であり、解剖学雑誌95巻に掲載を予定している。あわせて、関係諸機関への報告も予定している。

5. 技術職員における現状と課題についてのアンケートについて

各大学または解剖学教室に所属している技術職員の業務形態の現状を詳細に把握し、情報を共有する目的で、技術職員における現状と課題についてアンケート調査を実施した。現在報告書を作成中であり、解剖学雑誌95巻に掲載を予定している。あわせて、関係諸機関への報告も予定している。

6. 規約の一部改正について

「全国学術集会におけるシンポジウムに関する申し合わせ」と「全国学術集会における委員会主催のワークショップ・シンポジウムへの助成に関する申し合わせ」について、現状に即して新しい申し合わせを作成した。

7. その他

特になし。

IV. 審議事項

1. 新名誉会員の件

渡辺常務理事より、資料に基づき、新永年会員として大野伸一先生（第117回会頭/山梨大）が推薦され、審議の結果、承認された。

2. 新永年会員の件

渡辺常務理事より、資料に基づき、新永年会員として以下5名が推薦され、審議の結果、承認された。（敬称略）

江尻 貞一（朝日大・歯・口腔構造機能発育学・口腔解剖学（解剖学）（教授））

熊本 賢三（明治国際医療大・医学教育研究センター・解剖学（教授））

小西 正良（大阪河崎リハビリテーション大（教授））

佐藤 巖（日本歯大・生命歯・解剖1（教授））

吉田 淑子（富山大・医・再生医学（准教授））

3. 申請による代議員の件

渡辺常務理事より、資料に基づき、新代議員として以下6名が推薦され、審議の結果、承認された。（敬称略）

上田 祐司（獨協医大・解剖学（マクロ）（准教授））

植田 弘美（酪農学園大・獣医・獣医解剖学（准教授））

清蔭 恵美（川崎医療福祉大・医療技術・臨床検査学（教授））

日置 寛之（順天堂大・医・神経生物学・形態学（准教授））

本多 祥子（東京女子医大・解剖学・神経分子形態学（准教授））

宮崎 太輔（北海道大・医・保健学・生活機能学（准教授））

4. 令和元年度事業および業務監査報告の件

以下①～⑦の事業について、渡辺常務理事より資料に基づいて説明された。審議の結果、承認された。

①学術集会開催状況

令和元年度の第124回全国学術集会と支部学術集会の開催状況

②会議開催状況

令和元年度の常務理事会、理事会、定時社員総会の会議開催状況

③学会誌の刊行状況

ASIおよび解剖学雑誌の刊行状況、解剖学雑誌のバックナンバー(第1巻~80巻)のPDF化の完了と本年3月の会員ページへの掲載

④委員会報告

以下の委員会の活動報告書について

1) 認定解剖組織技術者資格審査委員会、2) 解剖体委員会、3) 解剖学用語委員会、4) 海外交流委員会、5) 教育・若手育成委員会、6) アウトリーチ委員会、7) 学術委員会、8) 医療専門職教育委員会、9) 倫理・利益相反委員会、10) 男女共同参画推進委員会、11) 若手研究者の会

⑤研究の奨励および業績の奨励

- ・令和元年度日本解剖学会奨励賞受賞者について（敬称略）
柏木 有太郎（東京大学大学院医学系研究科 神経細胞生物学教室）
「スパインシナプスの微細形態と動態の解析」
宝田 美佳（金沢大学医薬保健研究域医学系神経解剖学講座）
「アストロサイトのストレス応答を介した神経病態制御機構の解明」
藤田 幸（大阪大学大学院医学系研究科分子神経科学）
「中枢神経回路形成と修復に関わるゲノム高次構造の変動」
山田 名美（岐阜大学大学院医学系研究科病態制御学講座・解剖学分野）
「がん微小環境における細胞間コミュニケーションの解明」
山本 由似（東北医科薬科大学医学部解剖学）
「外部環境変化に応答する局所神経回路の可塑性と高次脳機能」
- ・令和元年度日本解剖学会認定技術者功労賞各受賞者について（敬称略）
市川 真澄（日本医大・解剖学・神経生物学）
園田 佳世子（熊本大・医・生体微細構築学）
松本 恵介（日本医大・解剖学・神経生物学）

⑥内外学術団体との協力ならびに連絡

後援

- ・第39回人体解剖トレーニングセミナー
- ・第11回形態科学シンポジウム
- ・総合画像研究支援創立十五周年記念シンポジウム

協賛

- ・3次元画像コンファレンス2019
- ・レーザー顕微鏡研究会第44回講演会
- ・第30回電顕サマースクール
- ・日本顕微鏡学会第75回学術講演会、第62回シンポジウム、第43回関東支部講演会
- ・Biomedical Raman Imaging 2019

⑦技術者認定

1級技術者合格者（敬称略）

小山 佳久（大阪大・医・神経細胞生物学）

2級技術者合格者（敬称略）

石川 剛（京都府医大・解剖学・生体構造科学）

奥田 浩司（奈良県医大・第1解剖）

園田 佳世子（熊本大・医・生体微細構築学）

中井 吉保（自治医大・解剖学・解剖学）

松尾 義久（山口大・医・神経解剖学）

5. 令和元年度決算および会計監査報告の件

木山監事・藤本監事より、監査報告書に基づき、事業報告内容は正確であり問題がないことが報告され、承認された。令和元年度決算において、若手の会が新規に開催されたことや解剖学雑誌のPDF化等による支出は、学会の発展のためのものであり適切な支出であることが補足説明された。審議の結果承認された。また、総会・全国学術集会を開催する際に、予算規模などを含めて準備段階から会頭と理事会との間で緊密に連絡がとれるようにすると良いのではないかと提案がなされた。

6. 令和2年度予算および事業計画の件

牛木常務理事より、ほぼ例年通りに予定されていることが報告され、承認された。補足として、解剖学雑誌の電子化は終了したこと、若手研究者の会への支援を前年度と同額で継続すること、さらに、誌上開催となった山口大会への補助が予定されていることが説明された。審議の結果承認された。

7. 令和3年度予算執行の件

1月から3月の予算執行を例年通りに行うことが報告され、承認された。

8. 第128回（令和5年度）総会・全国学術集会開催担当校の件

第128回（令和5年度）総会・全国学術集会開催の担当校は、現在未定であるが、次回総会でお諮り

する予定であることが報告され、承認された。

9. 10th APICA招聘の件

八木沼理事長より、10th APICAを2022年3月京都で開催することを目指しており、そのためには本年8月に北京で開かれる9th APICAにおいて招致活動をする必要がある。しかし、COVID-19のパンデミックによって9th APICAがどうなるか流動的などころがあり、今後の推移を見守りながら対応する必要がある旨の説明がなされ、承認された。

10. その他

特になし。

V. 第126回（令和3年度）日本解剖学会総会・全国学術集会準備状況

木山博資会頭（名古屋大学）より、第126回（令和3年度）日本解剖学会総会・全国学術集会は2021年3月28-30日に名古屋国際会議場で開催予定であること、また、プログラム委員会は、これから開催される予定であることが報告された。

閉会の辞

議長（八木沼理事長）より閉会の辞が述べられた。

上記の2020年（令和2年）度定時社員総会の議決および確認事項を明確にするため、この議事録を作成し、議事録署名人（監事）はここに記名押印する。

2020年（令和2年） 月 日

一般社団法人 日本解剖学会

議長

署名人

署名人